

平成28年度
網走市における景気動向調査
＜第IV四半期＞

報 告 書

網 走 商 工 会 議 所

目 次

第1章	調査要領	1
1-1.	調査時点及び調査対象期間	
1-2.	調査対象	
1-3.	調査方法	
1-4.	回収状況	
第2章	概況	
2-1.	全体の動き	2
2-2.	業種別の動き	3
第3章	各判断項目回答割合	
3-1.	業況	6
3-2.	完成工事高・生産高・売上高	7
3-3.	在庫水準	8
3-4.	採算	8
3-5.	資金繰り	9
第4章	景況天気図	
4-1.	記号説明	10
4-2.	全業種D.I.値の状況	10
4-3.	業種別D.I.値の状況	11
第5章	産業別経営上の問題点	13
第6章	産業別設備投資の状況	14
第7章	業界の景気動向等その他のご意見	15

第1章 調査要領

1-1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点：平成29年4月4日（火）～平成29年4月17日（月）
- (2) 調査対象期間：平成29年1月～3月期実施、及び平成29年4月～6月期見直し

1-2. 調査対象

網走市に所在する建設業（30件）、製造業（24件）、卸売業（20件）、小売業（41件）、サービス業（44件）、の5業種159社を調査対象とした。

1-3. 調査方法

調査対象に調査票を送付し、FAX、若しくは、返信用封筒による郵送で回答を受ける。

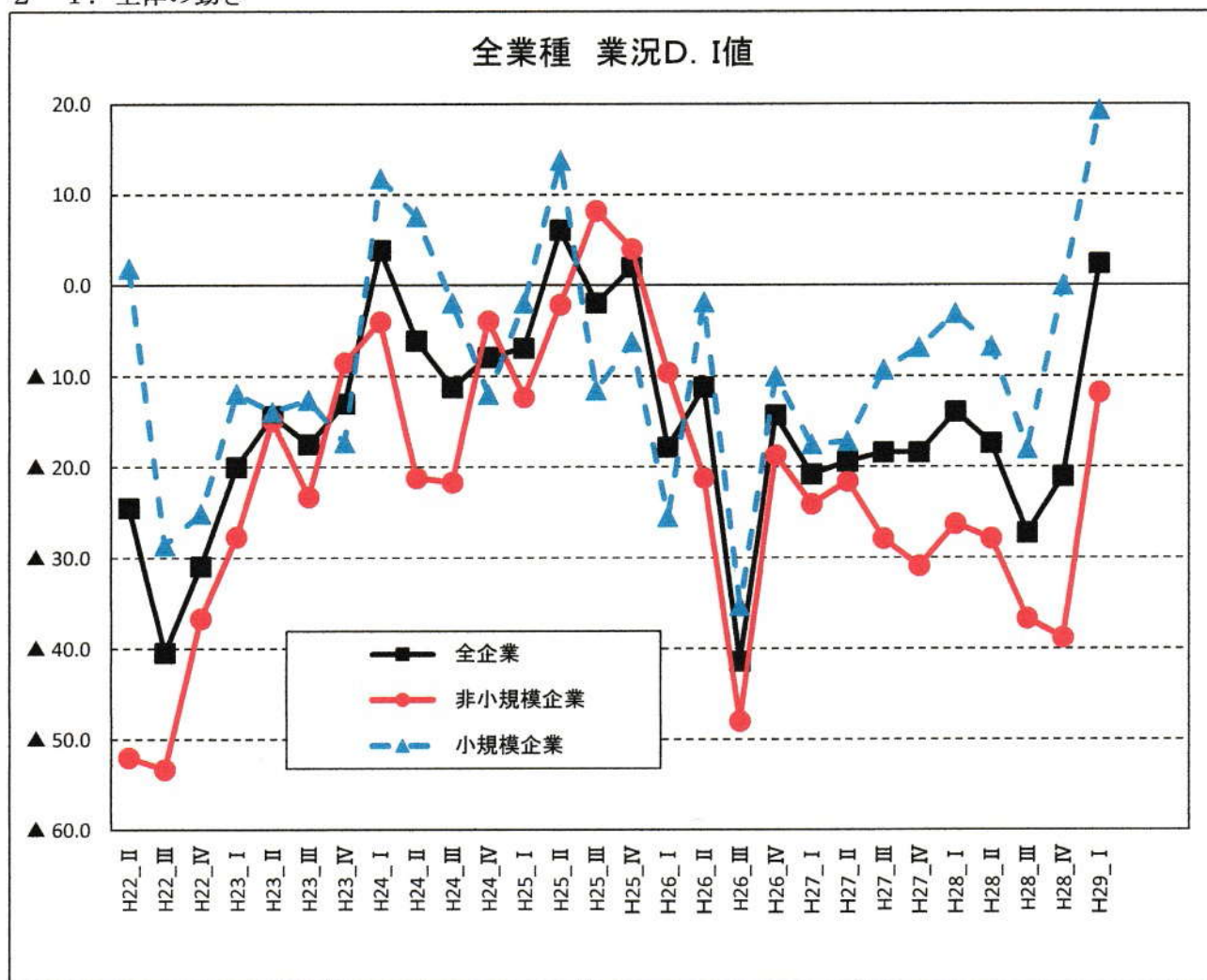
1-4. 回収状況

業種	企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
建設業		30件	22件 (非小規模企業:12件) (小規模企業:10件)	73.3%
製造業		24件	19件 (非小規模企業:9件) (小規模企業:10件)	79.2%
卸売業		20件	16件 (非小規模企業:10件) (小規模企業:6件)	80.0%
小売業		41件	33件 (非小規模企業:18件) (小規模企業:15件)	80.5%
サービス業		44件	35件 (非小規模企業:19件) (小規模企業:16件)	79.5%
合計		159件	125件	78.6%

注) 小規模企業とは、常時使用する従業員が20名以下（卸売業・小売業・サービス業は5人以下）を示している。

第2章 概況

2-1. 全体の動き



注) D.I.値とは、ディフュージョン・インデックスの略で、景気動向指数を示すものであり、好転の割合から悪化の割合を引いた値である。

平成28年度第IV四半期<1月～3月>の業況は、前年同期比で「好転企業」16.1%、「悪化企業」37.1%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は▲21.0と前期に比べ6.3ポイント改善しました。規模別で見ると、小規模企業のD.I.値は18.0ポイント改善し0.0、非小規模企業は2.1ポイント悪化し▲38.8となりました。全体としては、12期連続のマイナス水準で、網走市における景気停滞感は依然として続いています。

しかし、業種別でみた業況は、建設業が20.8ポイント改善して4.8、製造業は28.6ポイント改善され▲15.8と回復傾向にあり、卸売業は前期の▲29.4から14.4ポイント悪化し▲43.8となり、業種間に開きがみられました。

次期<4月～6月>の業況判断D.I.は25.5ポイント改善の2.4を予想しており、規模別で見ると、小規模企業のD.I.値は19.3、非小規模企業は▲23.7となっており、小規模企業のD.I.値は前期から41.6ポイントも改善している。業種別では建設業31.8(前回▲16.0)、製造業15.8(前回▲22.2)、卸売業▲12.5(前回▲31.3)、小売業▲9.1(前回▲41.9)、サービス業▲5.7(前回▲6.5)と全ての業種で改善傾向となっている。

経営上の問題点としては、「人材不足」が圧倒的に高く(回答の51.2%)、次いで「得意先減少」「同業者間の競争」、「諸経費増」、「売上の不振」が続きます。全体としては停滞感が続いているものの、次期に向けた回復・改善傾向が建設業や製造業で予測されており、景気停滞感からの回復が期待されます。

2-2. 業種別の動き

(1) 建設業

■完成工事高

規 模	増 加	減 少	D.I.値
小規模企業	50.0 %	20.0 %	30.0 ↗
非小規模企業	25.0 %	41.7 %	-16.7 ↘
全 体	36.4 %	31.8 %	4.6 ↗

■採 算

規 模	増 加	減 少	D.I.値
小規模企業	40.0 %	30.0 %	10.0 ↗
非小規模企業	25.0 %	41.7 %	-16.7 ↘
全 体	31.8 %	36.4 %	-4.6 ↘

■次期の見通し

判断項目	規 模	好転・増加	悪化・減少	D.I.値
業況	小規模企業	50.0 %	10.0 %	40.0 ↗
	非小規模企業	33.3 %	8.3 %	25.0 ↗
	全 体	40.9 %	9.1 %	31.8 ↗
完成工事高	小規模企業	40.0 %	20.0 %	20.0 ↗
	非小規模企業	16.7 %	33.3 %	-16.6 ↘
	全 体	27.3 %	27.3 %	0.0 →
資金繰り	小規模企業	30.0 %	10.0 %	20.0 ↗
	非小規模企業	0.0 %	0.0 %	0.0 →
	全 体	13.6 %	4.5 %	9.1 ↗

(2) 製造業

■生産高

規 模	増 加	減 少	D.I.値
小規模企業	30.0 %	20.0 %	10.0 ↗
非小規模企業	11.1 %	66.7 %	-55.6 ↘
全 体	21.1 %	42.1 %	-21.0 ↘

■採 算

規 模	増 加	減 少	D.I.値
小規模企業	10.0 %	30.0 %	-20.0 ↘
非小規模企業	11.1 %	33.3 %	-22.2 ↘
全 体	10.5 %	31.6 %	-21.1 ↘

■次期の見通し

判断項目	規 模	好転・増加	悪化・減少	D.I.値
業況	小規模企業	30.0 %	10.0 %	20.0 ↗
	非小規模企業	22.2 %	11.1 %	11.1 ↗
	全 体	26.3 %	10.5 %	15.8 ↗
生産高	小規模企業	30.0 %	0.0 %	30.0 ↗
	非小規模企業	22.2 %	11.1 %	11.1 ↗
	全 体	26.3 %	5.3 %	21.0 ↗
資金繰り	小規模企業	10.0 %	0.0 %	10.0 ↗
	非小規模企業	22.2 %	0.0 %	22.2 ↗
	全 体	15.8 %	0.0 %	15.8 ↗

(3)卸売業

■売上高

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	16.7 %	33.3 %	-16.6	↘
非小規模企業	10.0 %	50.0 %	-40.0	↘
全 体	12.5 %	43.8 %	-31.3	↘

■採 算

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	0.0 %	33.3 %	-33.3	↘
非小規模企業	0.0 %	30.0 %	-30.0	↘
全 体	0.0 %	31.3 %	-31.3	↘

■次期の見通し

判断項目	規 模	好転・増加	悪化・減少	D.I.値	
業況	小規模企業	50.0 %	0.0 %	50.0	↗
	非小規模企業	0.0 %	50.0 %	-50.0	↘
	全 体	18.8 %	31.3 %	-12.5	↘
売上高	小規模企業	50.0 %	0.0 %	50.0	↗
	非小規模企業	10.0 %	50.0 %	-40.0	↘
	全 体	25.0 %	31.3 %	-6.3	↘
資金繰り	小規模企業	16.7 %	16.7 %	0.0	→
	非小規模企業	0.0 %	10.0 %	-10.0	↘
	全 体	6.3 %	12.5 %	-6.2	↘

(4)小売業

■売上高

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	13.3 %	53.3 %	-40.0	↘
非小規模企業	16.7 %	50.0 %	-33.3	↘
全 体	15.2 %	51.5 %	-36.3	↘

■採 算

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	0.0 %	33.3 %	-33.3	↘
非小規模企業	16.7 %	38.9 %	-22.2	↘
全 体	9.1 %	36.4 %	-27.3	↘

■次期の見通し

判断項目	規 模	好転・増加	悪化・減少	D.I.値	
業況	小規模企業	20.0 %	33.3 %	-13.3	↘
	非小規模企業	22.2 %	27.8 %	-5.6	↘
	全 体	21.2 %	30.3 %	-9.1	↘
売上高	小規模企業	20.0 %	60 %	-40.0	↘
	非小規模企業	16.7 %	38.9 %	-22.2	↘
	全 体	18.2 %	48.5 %	-30.3	↘
資金繰り	小規模企業	6.7 %	33.3 %	-26.6	↘
	非小規模企業	11.1 %	22.2 %	-11.1	↘
	全 体	9.1 %	27.3 %	-18.2	↘

(5) サービス業

■売上高

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	33.3 %	20.0 %	13.3	↗
非小規模企業	15.8 %	57.9 %	-42.1	↘
全 体	23.5 %	41.2 %	-17.7	↘

■採 算

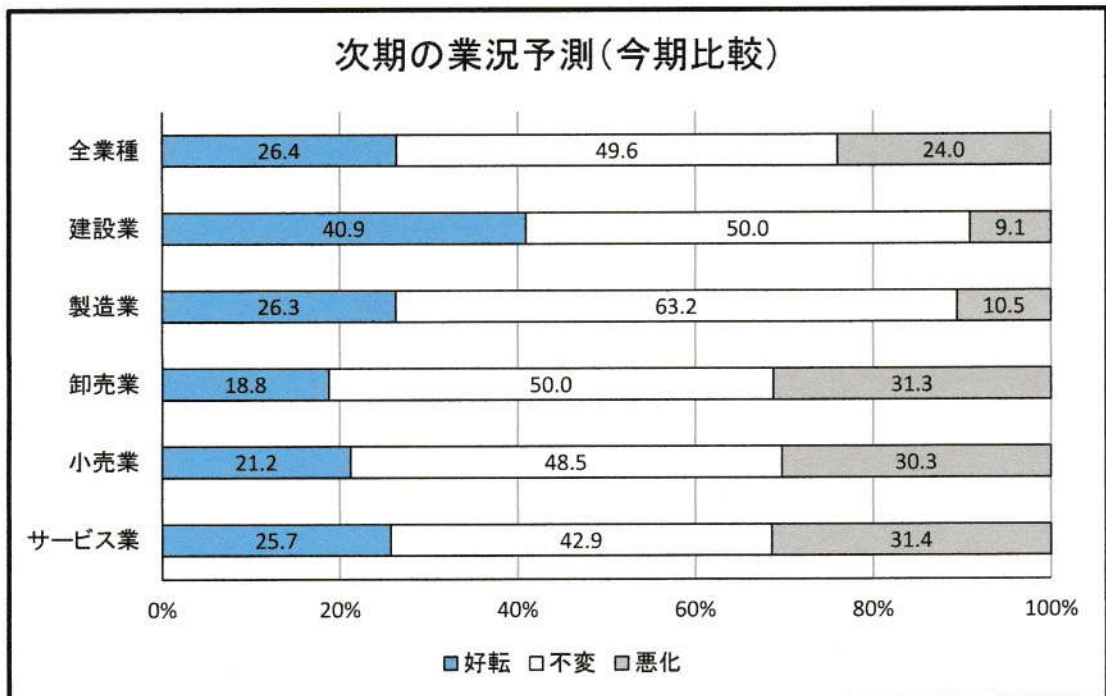
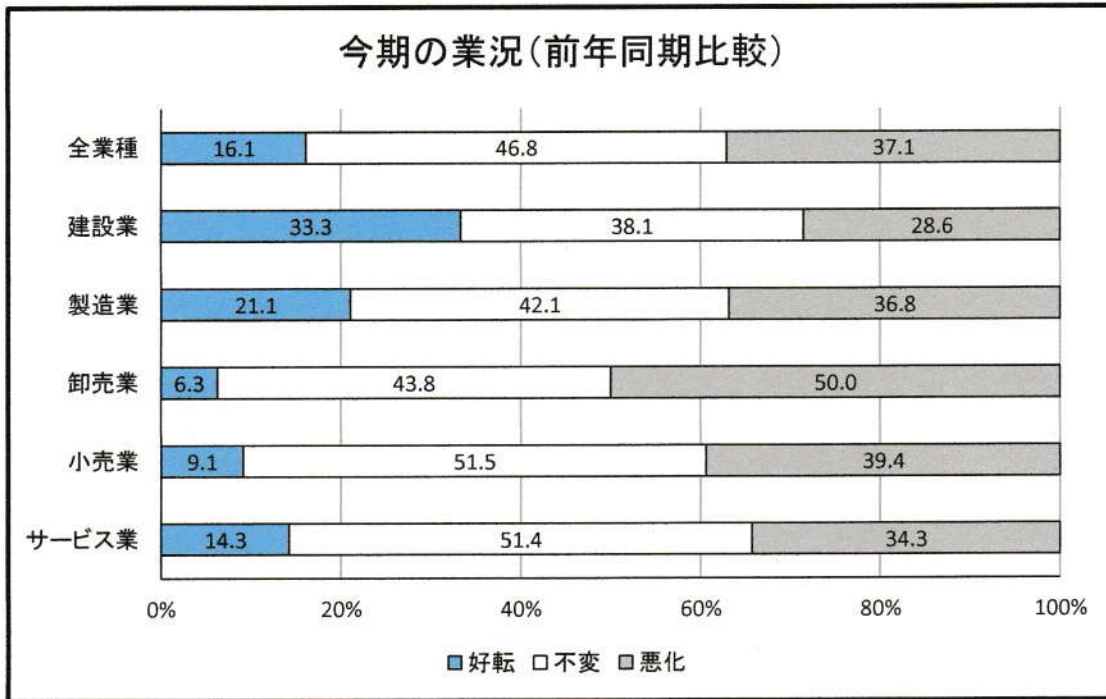
規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	25.0 %	25.0 %	0.0	→
非小規模企業	0 %	31.6 %	-31.6	↘
全 体	11.4 %	28.6 %	-17.2	↘

■次期の見通し

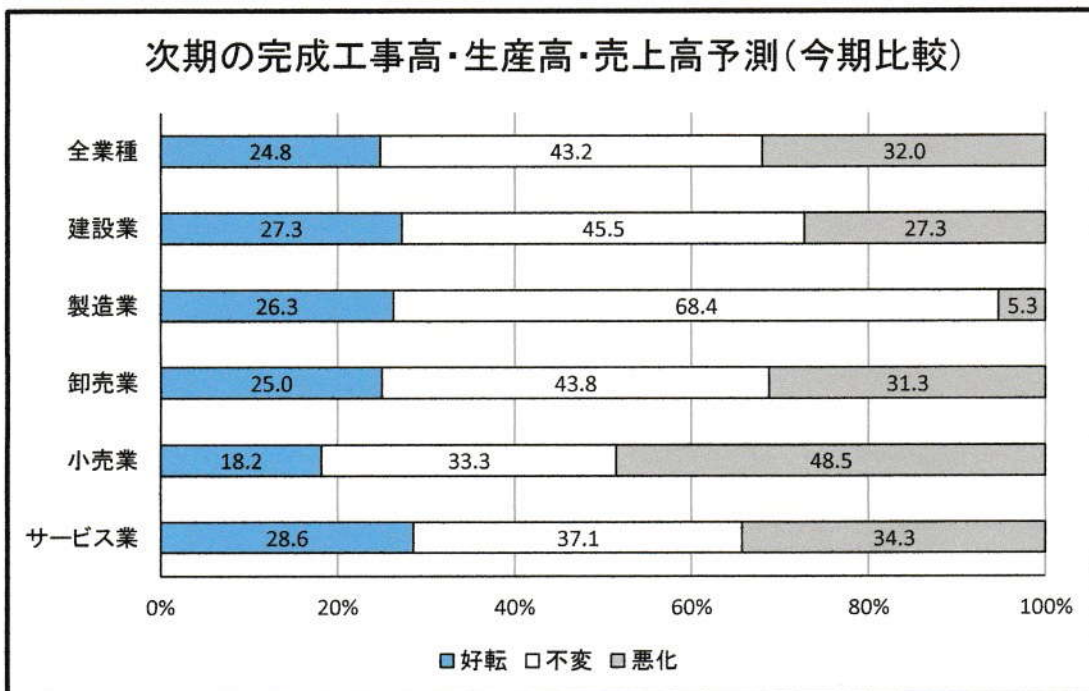
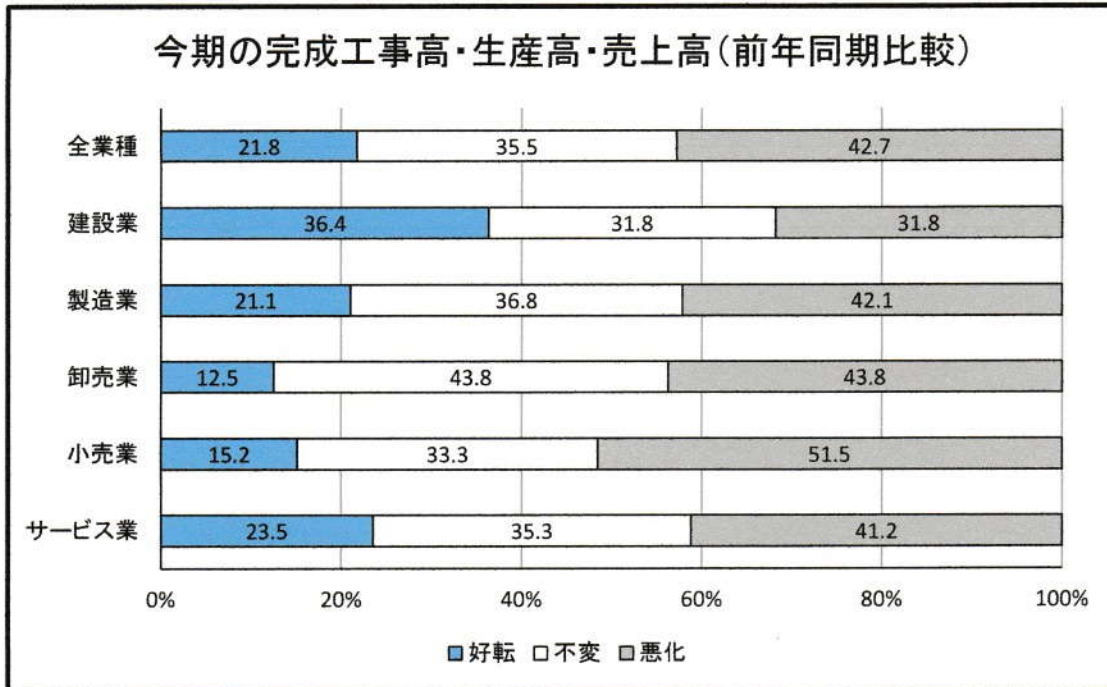
判断項目	規 模	好転・増加	悪化・減少	D.I.値	
業況	小規模企業	37.5 %	12.5 %	25.0	↗
	非小規模企業	15.8 %	47.4 %	-31.6	↘
	全 体	25.7 %	31.4 %	-5.7	↘
売上高	小規模企業	31.3 %	12.5 %	18.8	↗
	非小規模企業	26.3 %	52.6 %	-26.3	↘
	全 体	28.6 %	34.3 %	-5.7	↘
資金繰り	小規模企業	12.5 %	6.3 %	6.2	↗
	非小規模企業	15.0 %	15.0 %	0.0	→
	全 体	13.9 %	11.1 %	2.8	↗

第3章 各判断項目回答割合

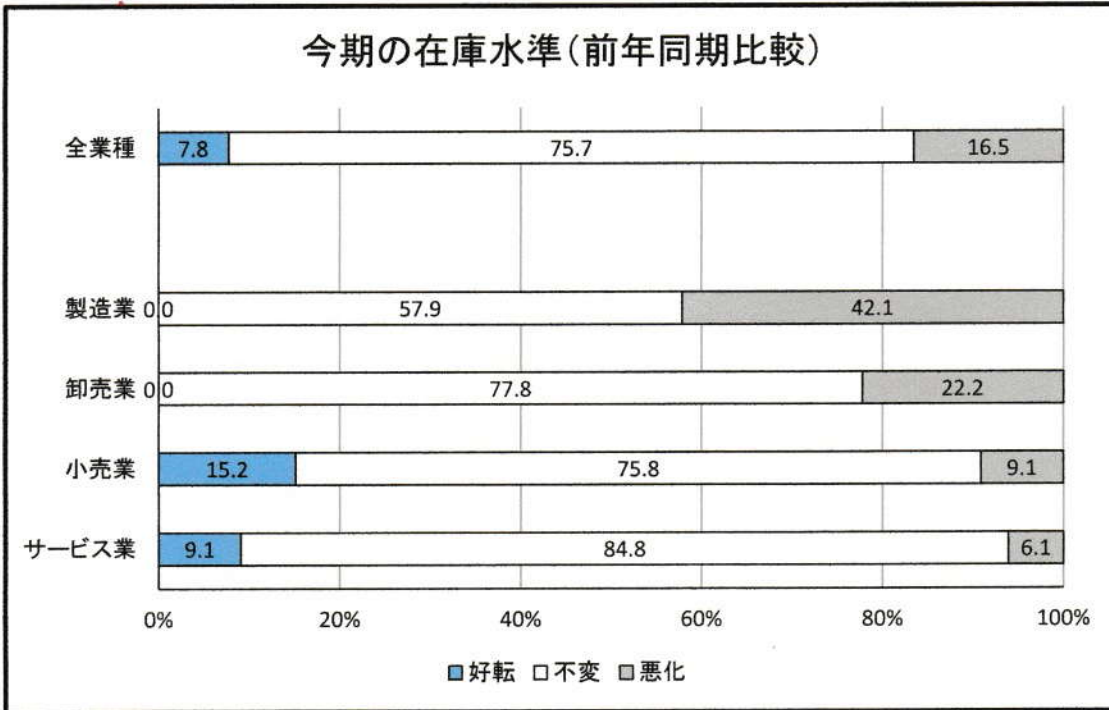
3-1. 業況



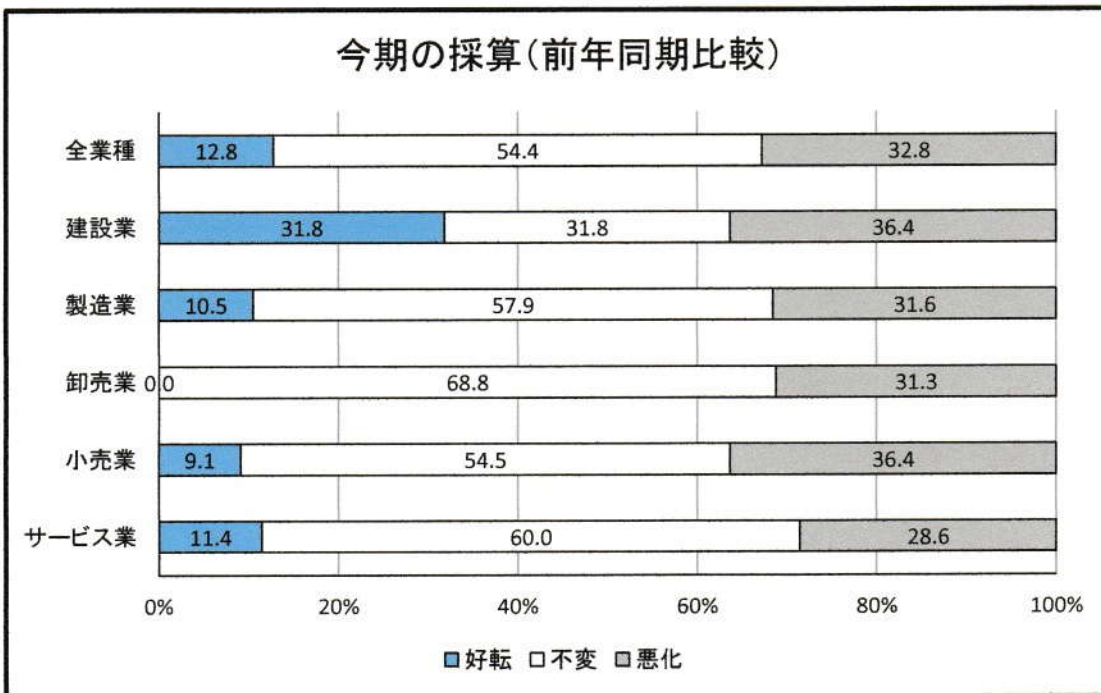
3-2. 完成工事高・生産高・売上高



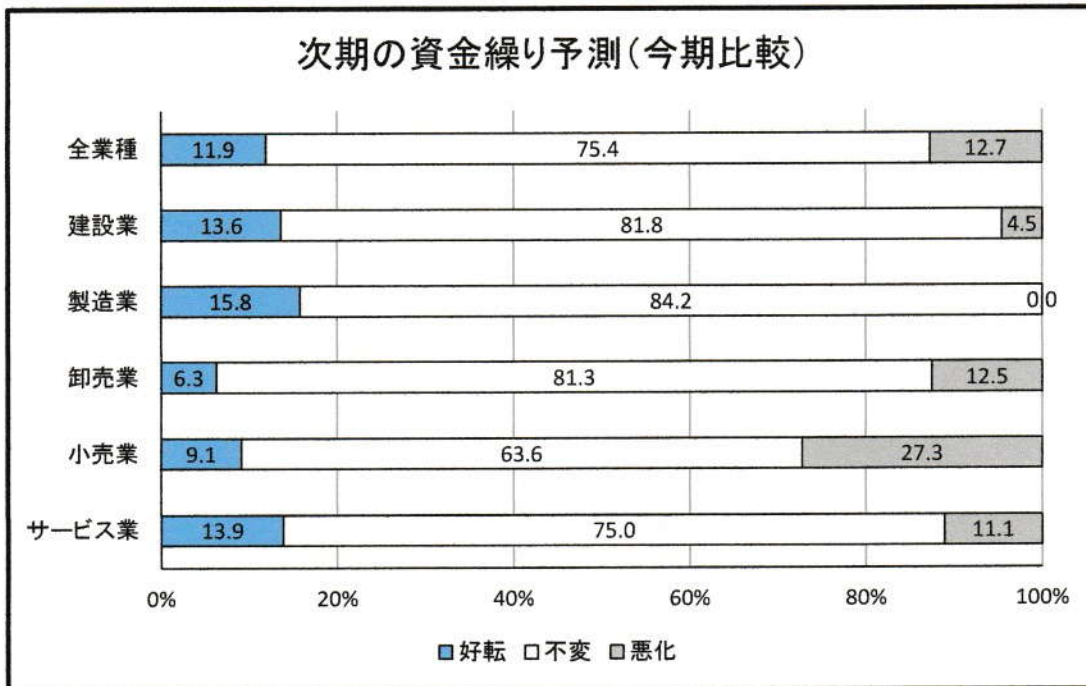
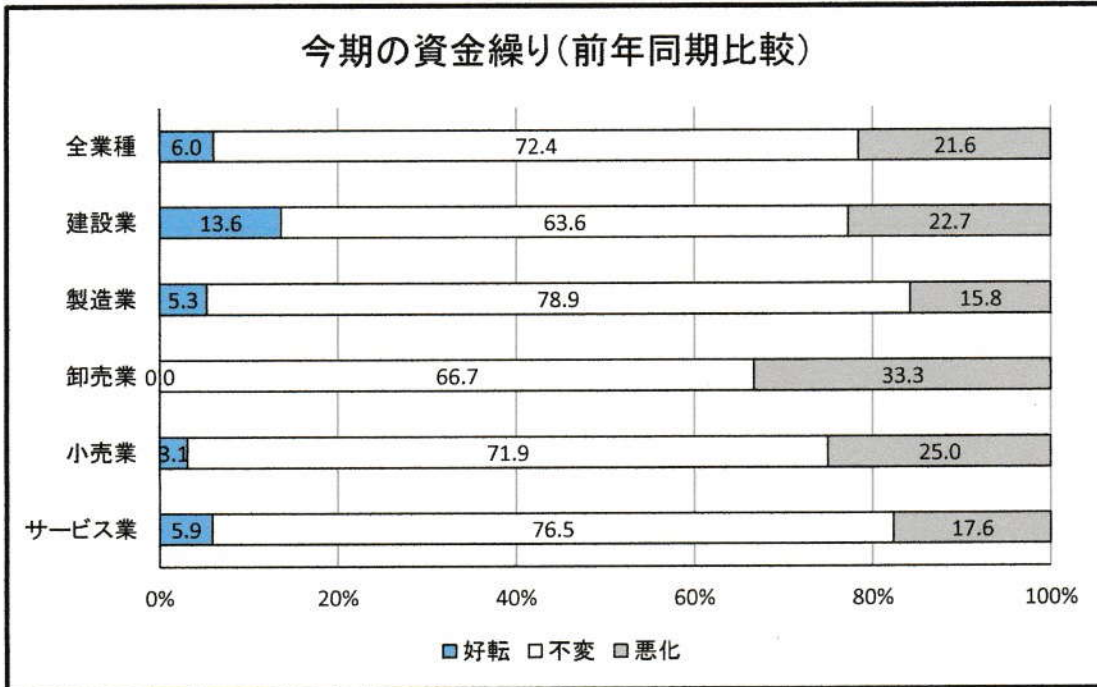
3-3. 在庫水準



3-4. 採算

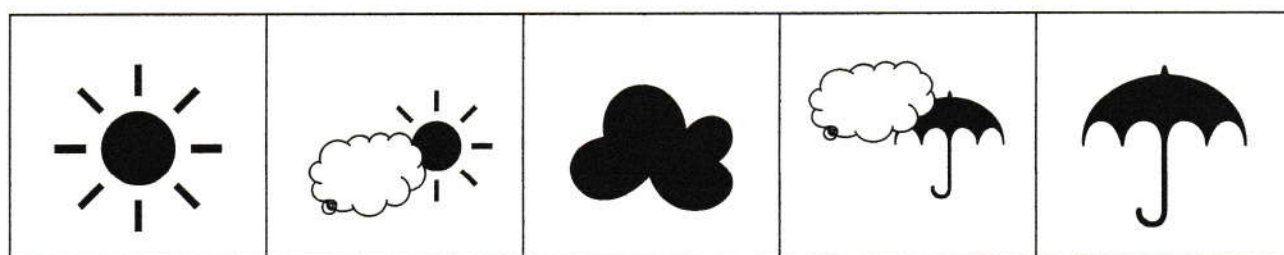


3-5. 資金繰り



第4章 景況天気図

4-1. 記号説明



とくに好調
(D.I. ≥ 50)








好 調
(50 > D.I. ≥ 25)

まあまあ
(25 > D.I. ≥ 0)


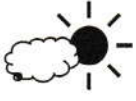



















不 振
(0 > D.I. ≥ ▲25)















きわめて不振
(▲25 > D.I.)

4-2. 全業種 D.I. 値の状況

	前年同月比	3ヶ月見通し
業 況	 ▲ 21.0	 2.4
売 上	 ▲ 21.0	 ▲ 7.2
採 算	 ▲ 20.0	/
資金繰り	 ▲ 15.5	 ▲ 0.8

4-3. 業種別 D.I.値の状況

	判断項目	前年同月比	3ヶ月見通し
建設業	業況	 4.8	 31.8
	完成工事高	 4.5	 0.0
	採算	 ▲ 4.5	
	資金繰り	 ▲ 9.1	 9.1
製造業	業況	 ▲ 15.8	 15.8
	生産高	 ▲ 21.1	 21.1
	採算	 ▲ 21.1	
	資金繰り	 ▲ 10.5	 15.8
卸売業	業況	 ▲ 43.8	 ▲ 12.5
	売上	 ▲ 31.3	 ▲ 6.3
	採算	 ▲ 31.3	
	資金繰り	 ▲ 33.3	 ▲ 6.3

	判断項目	前年同月比	3ヶ月見通し
小売業	業況	 ▲ 30.3	 ▲ 9.1
	売上	 ▲ 36.4	 ▲ 30.3
	採算	 ▲ 27.3	
	資金繰り	 ▲ 21.9	 ▲ 18.2
サービス業	業況	 ▲ 20.0	 ▲ 5.7
	売上	 ▲ 17.6	 ▲ 5.7
	採算	 ▲ 17.1	
	資金繰り	 ▲ 11.8	 2.8

第5章 産業別経営上の問題点

業 種	1位	2位	3位	4位	5位
建設業	人材不足	売上の不振	人件費増	諸経費増	得意先減少
製造業	人材不足	諸経費増	人件費増 同業者間の競合	\	得意先減少
卸売業	人材不足	同業者間の競合	資金調達	諸経費増 得意先減少	\
小売業	得意先減少	同業者間の競合 売上の不振	\	人材不足	諸経費増
サービス業	人材不足	諸経費増 得意先減少	\	人件費増 同業者間の競合	\
合 計	人材不足	得意先減少	同業者間の競合	諸経費増 売上の不振	\

第6章 産業別設備投資の状況

今期の設備投資の有無と設備内容について調査し、業種別に統計しました。
設備投資の有無は表1のとおり、設備内容は表2のとおりです。

表1 業種別件設備投資の動向

設備投資	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業		合計	
した	8件	36.4	6件	31.6	1件	6.3	6件	18.2	14件	40.0	35件	28.0
しない	14件	63.6	12件	63.2	15件	93.8	27件	81.8	20件	57.1	88件	70.4
無回答	-	-	1件	5.3	-	-	-	-	1件	-	2件	1.6
合計	22件	100.0	19件	100.0	16件	100.0	33件	100.0	35件	97.1	125件	100.0

※右側の数字はパーセンテージを示している。

表2 業種別設備投資の内容

設備投資内容	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	合計
土地	1件	1件	-	-	-	2件
店舗	-	1件	-	2件	4件	7件
販売設備	-	-	-	1件	-	1件
車輛運搬具	7件	1件	1件	3件	6件	18件
付帯設備	-	5件	-	2件	6件	13件
OA機器	1	-	-	2件	3件	6件
福利厚生施設	-	7件	-	-	-	7件
その他	-	1件	-	1件	-	2件

※複数回答があるため、表6-1の合計件数と相違している。

※その他の記述内容(2件記述有り)

- ・工具備品(製造業)、冷凍用スライサー(小売業)

第7章 業界の景気動向等その他のご意見

(1) 業界の問題点について

【建設業】

- ・人材不足、高齢化。
- ・今年度1～3月期は、工事遅延に伴い、工事時期が分散されたため完成工事高が前年にくらべ増となった。工芸工事の完成が、年度中にこだわっているため、10月～12月までに工事が重複し、1月～4月まで仕事が無くなる。年度末3月をまたいでの工期設定であれば、通年雇用も増えるのではと思う。

【製造業】

- ・人員・人材の確保が難しい状況。まずは会社とは働くとは何かから、学生（新入社員）に教えていく必要が出てきていると感じる。
- ・原材料がない→原料高。
- ・近所の同業者が閉店したために4月からの売上げは上昇見込。新規施設投資は補助金申請が通ったために、これから投資予定。
- ・原料の値上がりにより、売上げは増えても、利益は増えない。電気、運賃等の製造経費は上がっているが製品の値上げは出来ない。
- ・全国的に浜直が高く、商品によっては、客離れしている。

【小売業】

- ・優秀な人材が不足。若い人が長続きしない。
- ・ゴミ（お客様の持込）のマナーが悪い。外のゴミ箱は他のチェーンと話し合い分別前に撤去しましたが、協力してくれるお客様はいるが、何でも持込んでくる方もいて、ゴミ分別のための時間がかかる様になっている（ゴミ処理の人は雇えない）（中にはおむつ等捨てる方もいる）。家庭ゴミは持込まないでほしい。コンビニ業界はゴミ処理場ではない。
- ・業界に限った事ではないが、人口減少に伴う売上、利益の減に対し、根本的に不安を感じる。

【サービス業】

- ・人材不足。
- ・流氷観光シーズン当店にとって台湾ツアーは大きなウエートを占めている。台湾の飛行機会社の倒産の影響で、一社が大幅に入り込みが減少していたのが痛かった。中華の調理士が退職したが、その後、継続者が見つからず一部中華料理を休んでいる。早くフルメニューで営業したいと思っている。業界に問題がある。
- ・前年度と比較し、客足の減少が悩み。
- ・地元客の減少が続いているが、店舗によっては新現客も見られる。観光オフシーズンの対策が急務であるが、ドローミーイン効果は続いている。
- ・中心市街地へのビジネスホテルなどの誘致。
- ・同業者の件数が増加し、客足がばらける。
- ・アパート4に足を運んでもらえるようなものが必要。

- ・前回と同様であるが、民間資格の治療院のように自由に広告宣伝が行えないため、知名度、認知度 up させることが難しい。また、一般的には「はり」は怖いという昔ながらのイメージがまだまだ残っており、体調不良があっても鍼灸院に行って施術を受けるという考えに至らない人達が多くいらっしゃることも問題であると考えている。
- ・地元での飲食店経営は、一人何役もこなさなければならない（人を雇うまでにはいかないため）。今、「人生 100 金時代」の戦略・戦術が求められている。人口の少ないマチでの飲食店業は、どう生き延びていけばいいのか。すばらしいアイデアを持ち、多店舗展開されている経営は、日々悪戦苦闘の連続だと推察し、頭が下がる。
- ・小規模事業者は（私のような）とにかく、生き延びているため、心身の健康を保ち、人より知恵を捻出し、汗を流して活動することしかないと思う。「100 年ライフ」を生活していくためには 70、80 歳になっても「志」を維持し、好奇心を失わず（柔軟性をもって）ゆっくりコツコツと歩んでいかなければならない。